



こもれびの森の植物

カラスザンショウ（ミカン科サンショウ属）

老木が倒れ森の中にぽっかりと穴が開いているところができる
ると、この穴から光が差し込むようになります。するとその林
床でいち早く芽を出し、すくすくと成長する木が現れます。そん
な樹をパイオニア樹種といい、カラスザンショウもその一つです。
樹形は盃形で枝を水平に大きく広げています。大きな羽状複葉が



ギャップに光が差し込む

ふさふさと茂ってとても元気ですが、太陽の光を十分に受けないと生きていけない陽樹の仲
間です。葉をちぎって揉むと、とてもすっきりした柑橘類の香りがします。サンショウやミ



大きな羽状複葉

ヤマシキミなどミカン科の仲間はどうれもいい香りがします。た
だし、匂いに関する感じ方は人それぞれで、観察会で匂いを嗅
いでもらうと「あぁいい香り」と「わっ臭さっ」という人に分
かれます。秋になると実を付けます。落ちて実を潰して嗅
ぐとやはり柑橘系の香りがするので、カラスザンショウだとわ
かります。すくすくと太陽に向かって真っすぐに伸びていきま



幹は直線的

すから幹は直線的で、サンショウは新芽を若竹煮に添えたり、鰻の
かば焼きに果実の粉を振りかけて楽しみますが、カラスザンショウは
桐の代用材として下駄材に用いられるそうです。この幹や枝をカント
リーヘッジの杭に使ってみました。ただし、幹に棘が多いので厚い皮
手袋をしていないと作業中に掌が痛く
なります。生材は軟らかく手鋸で楽に
切れました。一方、乾燥すると固くなり、
ずっと伸びているので杭には適し
ているようです。ところでカラスとい



カントリーヘッジ

う名のつく植物は木もれびの森では、ウリ・エンドウ・ゴマ・
サンショウ・ヒシャク・ムギと六種自生しています。探しま
ながら散策するのも楽しいかもしれません。（鳥飼）

活動紹介： 木工チーム

主な活動は、市のイベント等で販売する丸太ベンチ、丸太イス等の製作です。これらの売
上金は当団体の活動資金の一部として、ボランティア活動に必要な機材や工具等を購入する
のに使われています。なお、ベンチやイスの材料は、森の保全活動で発生する間伐材で、主
に針葉樹であるスギやヒノキ、サワラを活用しています。樹皮を剥ぎ、一年間程森の中に放
置して乾燥させてから、虫食いや腐敗箇所をノミやカンナ等で整えてから、座面等で怪我を
しないように仕上げています。また、ベンチ部の板は厚さ5cmから7cm程にチェーンソーで引
いています。これらの作業に対し、体力とある程度の技術が必要であり、メンバー全員で経

験をつんで日々スキルアップを図っています。また、最近では販売価格も以前に比べ低下し、現在ではベンチで五千円、イスで千円程となっています。イスに関しては十個程売れますが、ベンチに対しては低迷しているのが現状です。最近では子供用の低いイスの要望もあり、製作販売して好調です。更に、少しでも売上に貢献したいと、メンバーの提案により、最近ではまな板作りに励んでいます。従って会員の方で、他の所で見たり聞いたりした物がありませんでしたら、是非とも提案して下さい。



このような活動を通して、日々のもの作りの楽しさ、大切さ、そして環境保全活動を支援していきたいと、メンバー全員で日々頑張っていますので、今後ともサポートして下さいようお願い致します。(本田)

木もれびの森の薬用植物(11)

サラシナショウマ (キンポウゲ科サラシナショウマ属)

2年前に突然こもれびの森のサラシナショウマが消えてしまいましたが、2018年秋に別の場所で、試験管ブラシのような白い花が咲いているのが見つかりました。サラシナショウマの萼は舟形で小さく、花卉は目立ちません。雄花と、多数の雄しべの間に2-3個の雌しべがある両性花があります。果実は袋果で、中に薄い翼状の鱗片がついた、たわしのような種子が入っています。



袋果



種子

キンポウゲ科は有毒なアルカロイドを含む植物が多いですが、サラシナショウマの根茎は、発汗・解熱作用を持つ生薬「升麻(ショウマ)」の材料として用いられます。漢方では「補中益気湯(ほちゅうえっきとう)」、「乙字湯(おつじとう)」などに含まれ、柴胡(サイコ)と升麻を組み合わせると、升提(しょうてい)作用といって下垂した内蔵を引き上げる効果があるので、子宮脱、脱肛に用いられてきたそうですが、効果の程はよくわかりません。むしろ、補中益気湯は人参と黄耆(オウギ)が主であり、体力、気力を増進させるのに現代医療でよく使われています。「辛夷清肺湯」は辛夷(シンイ、コブシの蕾、49号)と升麻の組合せで鼻づまりを改善します。(川村)



両性花